

令和2年度文化芸術による子供の育成事業-巡回公演事業-公演団体一覧

【C区分団体】

ブロック	分野	種目	公演団体名	対象学年				企画名	演目	複数年度実施
				小(低)	小(中)	小(高)	中			
D・F	演劇	児童劇	[C区分]劇団風の子	○	○	○	-	「風の子バザール」を通して、世界の人たちの文化と生活を楽しもう	「風の子バザール」 構成演出:藤井郁夫振付:吉岡陽子 舞台美術デザイン:有賀二郎音楽:岸功・菊池大成 衣裳:小峯三奈制作:浅野井優子	
F・H	メディア芸術	映像	[C区分]こども映画教室	-	○	○	○	映画鑑賞・映画制作ワークショップ「生きていないものが動く！」 ～体育館が映画館に！ みんなで赤いボールを主人公にした映画を撮ろう！～		

【A区分・B区分団体】

F	音楽	オーケストラ等	日本フィルハーモニー交響楽団	○	○	○	○	「様々なリズムを、踊り中心の音楽で感じよう(ソプラノ歌手による合唱指導つき)」	(小学校の部)(トークつきコンサート) ※【中学校の部】プログラムあり トオフエンバック:歌劇「天国と地獄」序曲 より《カンカン》 トドヴォルザーク:スラブ舞曲第1番 (省略) トペートーヴェン:交響曲第5番「運命」より《第1楽章》 ト「ピリープ」「さんほ」など学校と協議してご希望の1曲を共演 各各学校校歌 等	
F	音楽	オーケストラ等	群馬交響楽団	○	○	○	○	オーケストラの魅力大発見！一緒に歌おう、奏でよう！！	ロッシェニ/歌劇《ウリアム・テル》序曲 から「スイス軍の行進」 ・シュトラウスII世/ワルツ《春の声》作品410 (省略) ・ブラームス/ハンガリー舞曲 第5番 ・エルガー/愛のあいさつ 作品12 ・ビゼー/歌劇「カルメン」から前奏曲、序奏、アラゴネーズ、間奏曲等 他	
F	演劇	児童劇	株式会社 劇団芸優座	○	○	○	-	おしぼいって、おもしろい！	『一(いつ)休(きゆう)さん』二幕四場 作:平塚 仁郎 演出:村田 里絵	R2 (新規)
F	演劇	演劇	かわせみ座	○	○	○	○	構造・操作法も世界唯一の人影造を造った、独創的で優れた本物のマリオンネット表現をどうぞ	まぼろげのこだま 作・原案/山本由也・益村泉 人形美術・舞台美術/山本由也 構成・演出/高畑勲(アニメーション映画監督)	
F	演劇	ミュージカル	ACO沖縄	○	○	○	○	沖縄版ミュージカル「沖縄燦爛」	「沖縄燦爛」 作・演出:三隅治雄、ステージング:知花小百合、音楽:松元靖、 照明プラン:坂本義美、舞台美術デザイン:滝善光、 衣裳デザイン:阿部美千代、音響プラン:富山尚、演出助手:前里苗、企画・制作:下山久	
F	舞踊	バレエ	小林紀子バレエ・シアター	○	○	○	○	～ようこそ！バレエの世界へ！～	演目①『Movement Caprice』 振付・演出:小林紀子 作曲:ルイ・ゴッドシャルク(米国) 等 メイン演目『ソリテール』 振付:ケネス・マクミラン(英国) 作曲:マルコム・アーノルド(英国) 初演:1956年6月7日 サドラーズ・ウェルズ・バレエ団(英国)	
F	伝統芸能	歌舞伎・能楽	公益財団法人 鎌倉能舞台	○	○	○	○	【字幕解説付き】わかりやすい能・狂言鑑賞体験教室～日本の伝統文化を知ろう～	狂言鑑賞「柿山伏(かきやまふし)」 能鑑賞「能 小鍛冶(こかじ)」字幕付き	
F	伝統芸能	歌舞伎・能楽	公益社団法人 宝生会	○	○	○	○	はじめまして 能楽	狂言『柿山伏』 能『黒塚』	
F	伝統芸能	歌舞伎・能楽	萬狂言	○	○	○	○	狂言鑑賞教室～狂言って面白い！～	【小学校・中学校 共通】 狂言「柿山伏」 狂言「附子」 【中学校のみ】 語「奈須与市語」 ※一部抜粋	
F	伝統芸能	邦楽	太鼓芸能集団 鼓童	○	○	○	○	鼓童の交流学校公演	[1]太鼓演奏(大太鼓[鼓童編曲]、屋台囃子[鼓童編曲] ほかに全体で5～6曲) [2]太鼓体験 [3]トーク(メンバー自己紹介、楽器の紹介など)	
F	伝統芸能	演芸	公益社団法人上方落語協会	○	○	○	○	こどもらくご教室～落語のしみがカンタンまるわかり～	「寿無無」、「転失気」、「動物園」、「時うどん」、「七度狐」など	

※複数年度実施欄に「H30」の記載がある団体は平成30年度から、「R1」の記載がある団体は令和元年度から、「R2」の記載がある団体は令和2年度から3年間同じブロックで公演を行う団体です。

※<http://www.kodomogetjutsu.go.jp/junkai/kouen.html>から、団体のホームページや現在実施されている令和元年度の情報を閲覧することができます。







## VI 令和2年度「文化芸術による子供育成総合事業出演希望調書(実演芸術)

分野, 種目 (該当する種目に○を付してください。)

分野	種目
【音楽】	合唱, オーケストラ等, 音楽劇
【演劇】	○ <b>児童劇</b> ○, 演劇, ミュージカル
【舞踊】	バレエ, 現代舞踊
【伝統芸能】	歌舞伎・能楽, 人形浄瑠璃, 邦楽, 邦舞, 演芸

申請する区分に, ○を付してください。

A区分のみ ・ A区分とB区分の両方 ・ ○**C区分**○

複数申請の有無(該当する方に○を付してください。)

あり ・ ○**なし**○

複数の企画が採択された場合の実施体制(該当する選択肢のいずれかに○を付してください。)

- (1) 公演の実施時期が重複しても, 複数の企画を実施可能  
 (2) 公演の実施時期が重複しなければ, 複数の企画を実施可能  
 (3) 提案したいいずれか1企画のみ実施可能  
 (4) その他( )

## 芸術文化団体の概要

ふりがな	ゆうげんがいしゃ げきだんかぜのこ		
制作団体名	有限会社 劇団風の子		
代表者職・氏名	代表取締役 大濶弘幸		
制作団体所在地 (最寄り駅・バス停)	〒192-0152 東京都八王子市美山町 1320-1 (最寄り駅:高尾、バス停:縄切)		
電話番号	042-652-1001	F A X 番号	042-652-1013
ふりがな	ゆうげんがいしゃ げきだんかぜのこ		
公演団体名	有限会社 劇団風の子		
代表者職・氏名	代表取締役 大濶弘幸		
公演団体所在地 (最寄り駅・バス停)	〒192-0152 東京都八王子市美山町 1320-1 (最寄り駅:高尾、バス停:縄切)		
制作団体 設立年月	1950年 7月		
制作団体 組織	役員	団体構成員及び加入条件等	
	代表取締役 大濶弘幸 事務局長 高垣信子 創造部長 浅野井優子 制作部長 大森靖枝	俳優 21名、制作 11名、文芸・演出 4名 加入条件 ・劇団風の子国際児童演劇研究所卒業および 一定の経験者 ・18才以上の健康な方	
事務体制の担当	○ <b>専任</b> ○ ・ 他の業務と兼任	本事業担当者名	<b>岡本 圭</b>

経理処理等の 監査担当の有無	有 ・ 無		経理責任者名	西川恵美子
制作団体沿革	<p>1950年7月、子どもの為の専門劇団として創立。以来『こどものいるとどこへでも』を合言葉に、全国を巡演。</p> <p>1983年より7つの地域劇団風の子を発足させる。劇団風の子北海道、東北、中部、関西、九州がそれぞれ法人独立し、現在劇団風の子、風の子中四国事務所が有限会社劇団風の子として活動している。</p>			
学校等における 公演実績	<p>2018年度公演実績</p> <p>小学校公演:4作品 551公演 「スクラム☆ガッシン」139公演、「風の子バザール」210公演、「陽気なハンス」134公演、「ペコと秘密の樹」68公演他</p> <p>幼稚園・保育園・子ども劇場その他の公演:8作品 484公演 「風の一座」52公演、「なんかよーかい」35公演、「小さい劇場A」69公演、「小さい劇場B」75公演、「小さい劇場C」37公演、「おはなしちんどん」121公演、「黄金の実」38公演、「ポロンシアター」57公演他</p>			
特別支援学校に おける公演実績	<p>都立南大沢学園、岡山県新見市健康の森学園、宮崎県日南市くろしお支援学校、福島県会津若松市特別支援学校、広島県庄原市特別支援学校、埼玉県日高市特別支援学校、静岡県伊豆の国市東部特別支援学校、青森県青森市青森若葉養護学校、北海道黒松内町余市養護学校しりべし学園分校、北海道札幌市手稲養護学校</p>			
参考資料の 有無	A	申請する演目のチラシパンフレット等	有 ・ 無	
		申請する演目のDVDまたはWEB公開資料	有 ・ 無	
		※公開資料有の場合 URL		
		※閲覧に権限が必要な場合のIDおよびパスワード	ID:	PW:
	Aの 提出が 困難な 場合	今回申請する演目に近い演目で公演の様子がわかる内容のDVDまたはWEB公開資料	有 ・ 無	
		※公開資料有の場合 URL		
※閲覧に権限が必要な場合のIDおよびパスワード		ID:	PW:	

## 公演・ワークショップの内容

【公演団体名 劇団風の子】

対象	小学生(低学年・中学年・高学年)・中学生		
企画名	「風の子バザール」を通して、世界の人たちの文化と生活を楽しもう		
本公演演目	「風の子バザール」		
原作/作曲	構成演出:藤井郁夫		
脚本	振付:吉岡陽子		
本演出/振付	舞台美術デザイン:有賀二郎		
	音楽:岸功・菊池大成		
	衣裳:小峯三奈		
	制作:浅野井優子		
	公演時間( 70分)		
著作権	制作団体が所有	<input type="radio"/>	制作団体以外が所有する事項が含まれる 有 (制作団体以外が所有する事項が含まれる場合)許諾の有無
演目概要	<p>&lt;みどころ&gt;</p> <p>この作品は、とある国の街角の市場で繰り広げられる物語です。さまざまな物が売られ、即興詩人や手品師、辻音楽師などがおり、そこでは、いろいろな国の民話が披露されます。私たちはこの企画を通して子どもたちに、世界各国、各民族の生活と風土の香り高いお話や、歌、踊りなどに触れることで、どこの国の人も、どの民族も、自分たちと同じような大切な文化と生活を持っていることを伝えたいと思っています。</p> <p>&lt;あらすじ&gt;</p> <p>舞台はとある国のバザール(市場)。3人の売り子たちが、いろいろな国の民話を披露しあう。</p> <p>I イタリアの民話から「ギヤッコと豆」:少年ギヤッコは「豆をたべたねこをたべた犬をたべた豚をたべた馬」を手に入れる。言葉あそびとマイムと笑いのおおらかな作品。</p> <p>II ミャンマーの民話から「ヒヨコと大ネコ」:大ネコにつかまったヒヨコは、「たすけておくれよ、おかしをあげるから」と約束をしますが、おかしを一人で全部たべてしまいました。さあたいへん。市場に売られているいろいろなものを使って演じます。</p> <p>III ロシアの民話から「ふえふきイワースシカ」:イワースシカは笛が好き。彼が楽しい曲を吹くと、町じゅうの人が踊りだし、悲しい曲を吹くと誰もが泣かずにはいられません。イワースシカの奏でる笛の音が、欲張りな羊飼いの夫婦をこらしめるお話。次から次へ大小たくさんさんの笛が出てきます。</p>		
演目選択理由	<p>内包する3つの話の舞台は、バザール(市場)で売られている道具や布、帽子などを使って繰り広げられます。なんでもない布などが目の前で衣装に早変わりしたり、俳優のパントマイムでいろいろなものが見えてきたり、子どもたちは空想力を発揮して楽しめます。</p> <p>小規模作品ならではの舞台と客席の近さで、俳優は子どもたちがバザールに買い物に来たお客さんという設定で、声をかけながら進行します。そこには楽しいコミュニケーションが生まれます。</p> <p>世界の民話に触れることで、子どもたちが自分と異なる文化を持つ人たちを知り、理解する能力を養う一助になればと思います。国際社会への興味と理解が深まり、やがて世界に羽ばたく人間になることを望みます。</p>		

児童・生徒の共演，参加又は体験の形態	<p>① 公演の中で、お話とお話の間に外国の民族衣装を紹介する場面があります。タイのチュンガベン、アフリカのカンガを複数の子どもたちに身に着けていただき、民族舞踊を踊ります。</p> <p>②公演の最後に、「歩いていたら」という歌があります。その中に「まーるい地球を歩いていたら前からだれかがやってきた。おはようって言ったら、〇〇〇〇だってさ～」という歌詞が繰り返され、〇〇〇〇にはいろいろな国の挨拶や、動物の鳴き声などを入れていきます。そこを事前に子どもたちにグループやクラスで自由に考えておいていただき、役者が歌いながら側に来たら立ち上がって身体表現をまじえて挨拶をし、一緒に歌います。</p> <p>2019年度の公演後、より楽しくなるよう改善を加える予定です。</p>		
出演者	羽生田正明、金田拓、坂田 如(予定)		
公演出演予定者数 (1公演あたり)	出演者: 3名 スタッフ: 1名 合計: 4名	機材等 運搬方法	積載量 1t 車長 4.69m 台数 1台

## 【公演団体名 劇団風の子】

公演に当たっての会場条件	実施条件等確認書①をご確認ください。					
会場設営の所要時間(タイムスケジュール)の目安	前日仕込み(有(無))会場設営の所要時間(2時間20分程度)					
	到着	仕込み/ワークショップとリハーサル	本公演	内休憩	撤去	退出
	7:00	7:00~9:20/ 9:20~11:00	11:00~12:15	0分	13:30~15:00	15:10
児童・生徒の参加可能人数	ワークショップ	① 最大20人、② 全員				
	本公演	① 最大20人、② 全員				
ワークショップ実施形態及び内容	<p>事前に各学校に作品全体のわかるDVDとCDおよび楽譜、ワークショップの内容、目的、準備してもらいもの等を記したものを送ります。各学校で参加学年を決めていただきます。②のグループ分けは事前に行ってください。</p> <p>①タイと東アフリカの民族衣装の着付けと民族舞踊を練習します。</p> <p>②グループに分かれ、それぞれ相談して国や動物、言葉や鳴き声を決め、その特徴を話し合いながらいろいろ表現し、「歩いていたら」の歌を歌います。</p>					
ワークショップ実施形態の意図	<p>ドラマの内容を観客も出演者も一緒にハラハラしたり応援したり、喜びを共有したりすることが、生の演劇の醍醐味だと思います。この共感をつくりつつ、自らも表現してみることが目的です。</p> <p>ワークショップでは本番を楽しみに待つ、という気持ちを盛り上げるためにも、呼吸を合わせて踊ること、表現することの楽しさを伝えたいと思います。</p> <p>自分たちで考えた挨拶、動物の鳴き声や動きを友だちと一緒に楽しんで表現し、自分たちが芝居のエンディングを盛り上げる喜びを感じていただきたいと思います。</p> <p>リズムに乗って体を動かしながら友だちのリズムを感じ、お互いを感じあいながら表現することの喜びを体験してほしいです。</p>					
特別支援学校での実施における工夫点	<p>①民族衣装の場面では衣装を着ていただきます。</p> <p>②「歩いていたら」では、一緒に歌ったり、からだをゆすったり、その子、その子の可能な方法で参加することができます。リズムによって身体を動かすのも楽しいです。みんな一緒に楽しさ、嬉しさを共有することが目的です。</p>					
実施可能時期	実施可能時期スケジュール表をご確認ください。					

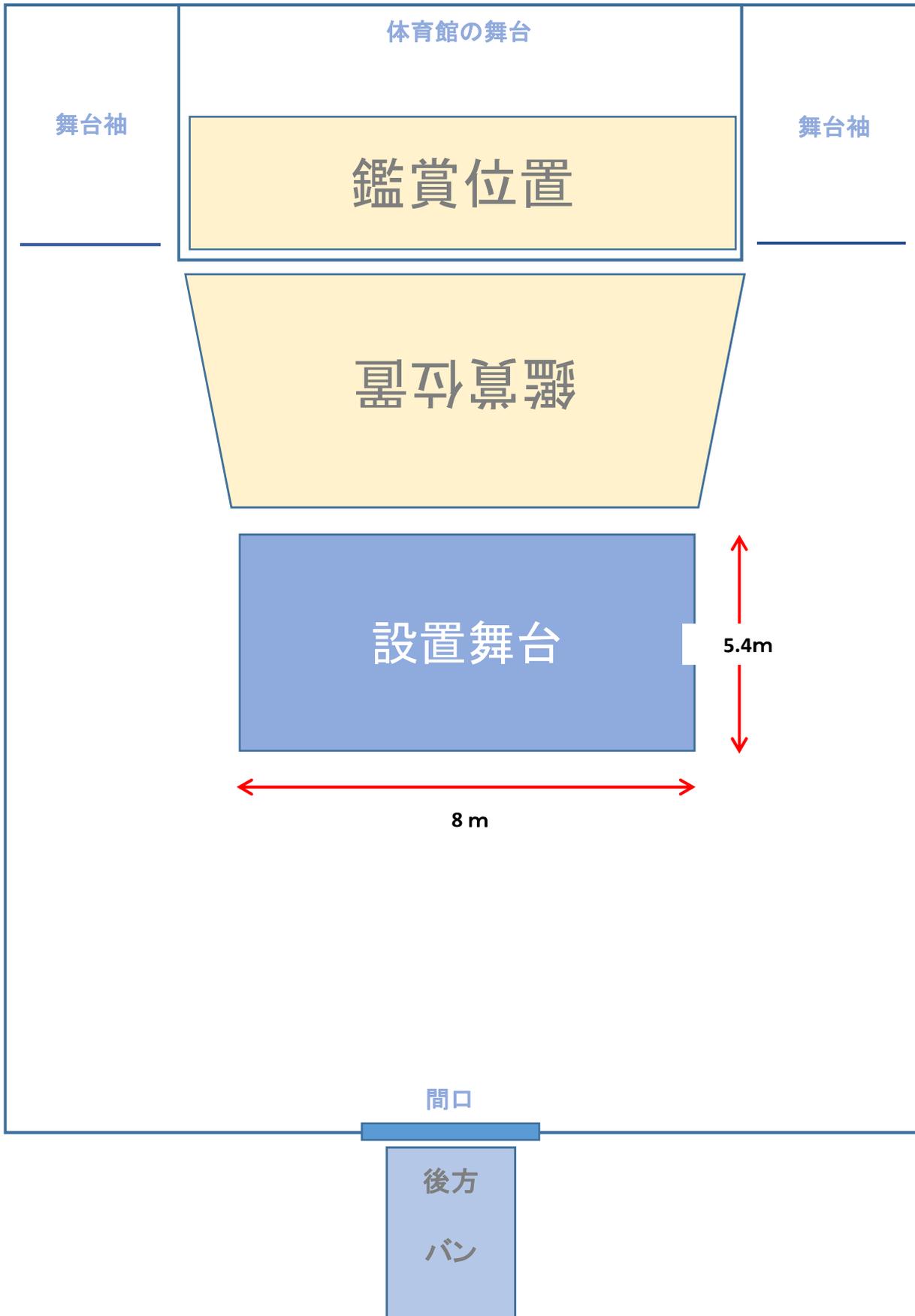
【令和2年度文化芸術による子供育成総合事業－巡回公演事業－実施条件等確認書①】

ID	K122	分野	演劇	種目	児童劇	ブロック	K	区分	C区分
公演団体名	劇団風の子			制作団体名	有限会社 劇団風の子				

① 会場条件等についての確認

項目	応相談	必要条件等							
控室について	可	必要数 *	1室	条件	子どもが通る場所の場合、カーテンがある部屋を希望します。				
搬入について	不可	来校する車両の大きさと台数 *			バン	1台			
	不可	来校する車両の内、横づけが必要な車両の大きさ			バン				
	可	搬入車両の横づけの要否 *			要				
	可	横づけができない場合の搬入可能距離 *			10m以内				
	可	搬入経路の最低条件			・入口、経路、階段とも幅1.8m以上が望ましい。 ・屋根のある経路が望ましい。				
		理由			舞台大道具の搬入をするため				
	可	設置階の制限 *			エレベーターの設置等があれば2階以上も可				
	可	搬入間口について 単位:メートル		幅	1.8m	高さ	2.2m		
WSについて	可	参加可能人数			①(民族衣装)最大20人/②(歌)全員				
	可	学年の指定の有無 *			なし	指定学年 *	なし		
	可	所要時間の目安 単位:分			70分				
本公演について		会場設営・本公演・メインプログラムの所要時間			※「出演希望調書」内「会場設営の所要時間(タイムスケジュール)の目安をご参照ください。				
	可	鑑賞可能人数			250名				
	可	舞台設置場所 *			フロア				
	可	舞台設置に必要な広さ 単位:メートル		幅	8m	奥行	5.4m	高さ	指定無し
	—	体育館の舞台を使用する場合の条件			舞台袖スペースの確保 *			不要	
	—				舞台袖スペースの条件 *				
	—				緞帳 *	不要	バトン *	不要	
	—	遮光(暗幕等)の要否 *			不要	理由			
	—	ピアノの調律・移動の要否		指定位置へのピアノの移動 *		不要	※指定位置は会場設置図面にて御確認ください。		
	—			ピアノの事前調律 *		不要			
	—	フロアを使用する場合の条件		バスケットゴールの設置状況 *		格納されていれば可			
	可	公演に必要な電源容量			20A	※主幹電源の必要容量			
	その他特記事項								

会場図面(表記単位:メートル)



搬入間口について	幅	1.8m	高さ	2.2m
搬入車両の横づけの要否		要		
横づけができない場合の搬入可能距離		10m		

※搬入に関する条件の詳細については、図面上の表にて御確認ください。



劇団風の子

# 風の子 バザール

絵／伊藤瑞穂

構成演出／藤井郁夫 美術／有賀二郎 衣裳／小峯三奈  
音楽／岸功・菊池大成 振付／吉岡陽子 制作／浅野井優子

厚生労働省社会保険審議会推薦・児童福祉文化財



**風の子バザール**

世界のお話でござい！

珍しい話 不思議な話 恐ろしい話 愉快な話

### ●バザールって？

バザールとは、日本語で「市場」という意味で、野菜や果物や魚や肉や衣類やおもちゃが売られていたり、即興詩人や手品師、ヘビ使いや辻音楽師などがいたりします。

世界中、人間生活のあるところ、かならず市場があり、そこにはその国々の人たちの生活がいきづいています。民衆の喜び、悲しみ、楽しさ、苦しさ、いろんな思いがまじりあいながら、活気にあふれています。そこは世界を知り、さまざまな国や民族の生活や文化を知り合う、かけがえのない貴重な場でもあるのです。

じいっと耳をすますと、雑踏の中から、世界の珍しい話、ふしぎな話、恐ろしい話、愉快な話が聞こえてきます。

さて、「風の子バザール」からは、どんなお話が聞こえてくるのでしょうか……。



### ●見てくれた方からの声

《子どもからの声》

▼豆を食べたネコを食べたイヌを食べたブタを食べたウマ、がおもしろかったです。

▼地球上に192の国があることを初めて知りました。

▼いろんな国の話ができて、音楽も入って、その楽器がその国のすばらしいもので、すごいなあと思いました。

▼とってもおもしろい話もあったし、ふしぎに思う話もありました。世界にはいろんな話があったらいいなあ。

《大人からの声》

▼シンプルな舞台装置、生の声と身の回りにあるもので、こんなに気持ちが伝わってくるなんて。私の回りのみんなにも見せたいな。

▼ヒヨコと親鳥のやりとりのおもしろかったこと。子ども以上に大笑いしてしまいました。

▼とってもすてきな旅をしたみたいです。子どもの反応もよく一緒に見られてとてもよかった。

▼いろんな国の民話をじっくり楽しめました。民族色豊かな小道具や楽器、そして3人の息のあったユーモラスな演技にも魅せられました。

### ●おもな内容

■イタリアの民話

《ギアッコと豆》

「世界の民話」(実業之日本社刊)

■ミャンマーの民話

《ヒヨコと大ネコ》

「世界の民話」(実業之日本社刊)

■ロシアの民話

《笛ふきイワーヌシカ》

(ミハエル・プラトフ作、偕成社刊)



## VIII 令和2年度「文化芸術による子供育成総合事業」出演希望調書(メディア芸術)

分野, 種目 (該当する種目に○を付してください。)

分野	種目
【メディア芸術】	<input checked="" type="radio"/> 映像, メディアアート等

申請する区分に, ○を付してください。

A区分・ C区分

複数申請の有無(該当する方に○を付してください。)

 あり・なし

複数の企画が採択された場合の実施体制(該当する選択肢のいずれかに○を付してください。)

- (1) 公演の実施時期が重複しても, 複数の企画を実施可能  
 (2) 公演の実施時期が重複しなければ, 複数の企画を実施可能  
 (3) 提案したいずれか1企画のみ実施可能  
 (4) その他( )

## 芸術文化団体の概要

ふりがな 制作団体名	いっばんしゃだんほうじんこどもえいがきょうしつ 一般社団法人こども映画教室		
代表者職・氏名	代表理事 土肥 悦子		
制作団体所在地 (最寄り駅・バス停)	〒158-0084 東京都世田谷区東玉川 1-32-23 こども映画教室事務局 【最寄駅】 田園調布駅		
電話番号	03-6313-1641	FAX番号	03-6313-1641
ふりがな 公演団体名	こどもえいがきょうしつ こども映画教室		
代表者職・氏名	代表理事 土肥 悦子		
公演団体所在地 (最寄り駅・バス停)	同上		
制作団体 設立年月	2013年4月 (2019年1月一般社団法人化)		
制作団体 組織	役員	団体構成員及び加入条件等	
	土肥 悦子(代表理事) 諏訪 敦彦(専務理事) 藤岡 朝子(理事) 原 悟(理事) 林 知一(理事)	団体社員 土肥 悦子/諏訪 敦彦 従業員(事務局) 浅見 孟 団体社員加入条件: 社員総会での協議の上、加入	

事務体制の担当	専任 ・ <b>他の業務と兼任</b>	本事業担当者名	浅見 孟
経理処理等の 監査担当の有無	<b>有</b> ・ 無	経理責任者名	土肥 悦子
制作団体沿革	<p>2004年 金沢コミュニティシネマが主催(金沢 21 世紀美術館共同主催)として、前身となる「こども映画教室」を石川県金沢市が拠点として開催(以降毎年開催)</p> <p>2013年 任意団体「こども映画教室」として、東京都を拠点に活動開始。 2013年から2018年までの6年間で40回の映画に関するワークショップを行った。活動地域は、東京・横浜・川崎・福島・弘前・高崎・上田・豊田・奈良などに広がっている。</p> <p>2015年 上映会およびシンポジウム「こどもが映画と出会うとき」を主催(以降毎年開催)</p> <p>2017年 フランスのシネマテーク・フランセーズが主催する教育プログラム「Le Cinéma, cent ans de jeunesse(映画、100歳の青春)」に、世界で15カ国目の参加国、そして日本初のコーディネーターとして参加。</p> <p>2019年 「一般社団法人こども映画教室」として法人化。</p>		
メディア教育における活動実績	<p>2013年8月 横浜市教育委員会後援、東京藝術大学大学院映像研究科協力のもと「こども映画教室@横浜2014」実施 (2014年、2015年、2016年も実施)</p> <p>2014年6月 世田谷区奥沢小学校 奥沢体験楽校にて 「映画のおもちゃをつくろう！」 (課外活動) 開催</p> <p>11月 &lt;こどもと映画制作&gt; しんゆり映画祭シンポジウム招聘・登壇</p> <p>2015年1月 映画と教育についてのシンポジウム 「こどもが映画と出会うとき」主催 (以降毎年主催)</p> <p>1月～3月 横浜市立新田小学校 「こども映画教室@新田小学校」を (総合の時間・国語などの授業で) 開催</p> <p>2月 「映像アート・マネージャー養成講座 in 宮古」にて 「こども映画教室と創造的な場づくりについて」講義・登壇</p> <p>7月 「全国映連第44回 映画大学 in 今治」にて 「映画館と街、子どもと映画」講義・登壇</p> <p>10月 山形国際ドキュメンタリー映画祭にて 「こどもと映画」シンポジウム招聘・登壇</p> <p>2016年6月～10月 お茶の水女子大学附属小学校 選択授業にて 選択授業「映画」実施</p> <p>2019年3月 平成30年度国際交流基金海外派遣助成事業として 「こども映画教室(映画教室)南米・米国 公演・デモンストレーション」実施。 チリのチリ大学において、「映画は学校だ! 映画教育に関する国際シンポジウム」にて講演(諏訪敦彦、土肥悦子)</p> <p>2019年6月～11月 「令和元年度文化芸術による子供育成総合事業-巡回公演-」実施</p>		
特別支援学校における活動実績	<p>「令和元年度文化芸術による子供育成総合事業-巡回公演-」にて特別支援学級の児童と普通学級の児童混合でワークショップをおこなった</p>		

参考資料の有無	A	申請する企画のチラシパンフレット等	有 ・ 無
		申請する企画の DVD または WEB 公開資料	有 ・ 無
		※WEB 公開資料有の場合 URL	<a href="https://youtu.be/zpVtDDjkt1w">https://youtu.be/zpVtDDjkt1w</a> <a href="https://www.kodomoeiga.com/2019">https://www.kodomoeiga.com/2019</a> <a href="https://www.kodomoeiga.com/blank-9">https://www.kodomoeiga.com/blank-9</a>
		※閲覧に権限が必要な場合の ID およびパスワード	ID: PW:
	A の提出が困難な場合	今回申請する企画に近い活動を記録した DVD または WEB 公開資料	有 ・ 無
		※WEB 公開資料有の場合 URL	
		※閲覧に権限が必要な場合の ID およびパスワード	ID: PW:



2019 年度開催の公演の様子は  
上記 QR コードからご覧いただけます。

## メインプログラム・ワークショップの内容

【公演団体名】こども映画教室

対 象	小学生(低学年・ <b>中学年</b> ・ <b>高学年</b> )・ <b>中学生</b>										
企 画 名	映画鑑賞+映画制作ワークショップ 「生きていないものが動く！」 ～体育館が映画館に！ みんなで赤いボールを主人公にした映画を撮ろう！～										
プログラム全体の流れ	<p>【プログラムの構成】</p> <table border="1" data-bbox="400 600 1445 857"> <tr> <td></td> <td>ワークショップ1回 → メインプログラム</td> </tr> <tr> <td></td> <td>ワークショップ2回 → メインプログラム</td> </tr> <tr> <td>○</td> <td>ワークショップ → メインプログラム → ワークショップ</td> </tr> <tr> <td></td> <td>メインプログラム → ワークショップ2回</td> </tr> <tr> <td></td> <td>メインプログラム → ワークショップ1回</td> </tr> </table> <p>【全体の流れ】</p> <p>1 日目【ワークショップ1回目】(70分)</p> <p>① 導入・講師紹介・今日すること(5分)</p> <p>② 「映画鑑賞」:鑑賞作品『赤い風船』上映(35分/1956年/フランス)</p> <p>③ 鑑賞ワークショップ</p> <p>「映画の中の「赤い風船」の気持ちを想像してみよう」(30分)</p> <p>生きていない風船がまるで生きているように動き、少年との信頼関係や友情を結んでいく映画。しかし、風船の気持ちは映画の中では語られないので、風船が悲しい、嬉しいと思っていると感じているのは鑑賞している人。そこに気づいてもらうワーク</p> <p>1)5人のチームに分かれて映画に登場した人物、場所、出来事を思い出し、付箋に書き出す</p> <p>2)映画の流れを描いた映画のタイムラインシートに、さきほどの人物、場所、出来事の付箋をそれらが映っている場所(時間)に貼る</p> <p>3)赤い風船がどんなきもちだったのか、風船型のカードに書き込み、タイムラインシートに貼る</p> <p>4)他のチームのタイムラインシートを鑑賞して、人との違いを発見する</p> <p>【メインプログラム】(140分 ※休憩含む)</p> <p>④撮影ワークショップ(100分)</p> <p>『赤いボールの冒険』という映画を撮ってみよう</p> <p>1 チーム5名に分かれ、1チームにつき1分の映画を撮影し、最後にそれを1本の映画にするプログラム</p> <p>1)鑑賞ワークで最後にやった、風船の気持ちを描いた風船型のカードの中から、各チーム1枚を選ぶ</p> <p>2)そのカードに書かれた「気持ち」が『赤いボールの冒険』ということもたちが作る映画のなかの主人公赤いボールの気持ちとなる。風船型のカード●のゴムの部分を切り取り、ボール型のカード●にする</p> <p>3)『赤いボールの冒険』ルールブックの説明(撮影の基本的な約束事)</p> <p>4)各チームに赤いボールとiPadが配られる</p> <p>5)各チームに配布されたミッションカードを全員が引き、そこに書かれたミッションを実行 (クローズアップ、移動撮影、パン、などの撮影方法が自然とできるようなミッションになっている)</p> <p>6)チームごとに決めた「赤いボールの気持ち」が映るように、工夫して撮影</p>		ワークショップ1回 → メインプログラム		ワークショップ2回 → メインプログラム	○	ワークショップ → メインプログラム → ワークショップ		メインプログラム → ワークショップ2回		メインプログラム → ワークショップ1回
	ワークショップ1回 → メインプログラム										
	ワークショップ2回 → メインプログラム										
○	ワークショップ → メインプログラム → ワークショップ										
	メインプログラム → ワークショップ2回										
	メインプログラム → ワークショップ1回										

	<p>⑤編集ワークショップ(40分)  「みんなで撮った映像を1分に編集してみよう」  1) iPad に入れた編集ソフトの操作方法を教える  2) こどもたちが自分たちで編集をする</p> <p>&lt;&lt;1日目の夜のうちにこども映画教室スタッフがこどもたちの作品を1本に編集。また、こどもたちの撮影した映像を素材としてまったく違う映画をスタッフが編集&gt;&gt;</p> <p>2日目【ワークショップ】(50分) (※在校生数によっては100分)  ①発表会「みんなの作品をつなげて1本になった映画をみてみよう」  ②各チームの作品を再上映し、赤いボールの気持ちがどんな風に映っていたか、他のチームの人たちが感想を言う  ③作ったチームの人が撮影や編集で工夫したところや赤いボールの気持ちをどのように表現しようとしたのか伝える  ④プロの編集バージョンをみんなで鑑賞  ⑤特別講師(映画監督など)からの講評</p> <p>記念撮影</p>		
児童・生徒の参加上限人数	ワークショップ	30～100名想定	
	メインプログラム	30～100名想定	
メインプログラムの主たる指導者	別紙「【C区分_赤いボール】出演者名簿」参照		
スタッフ人数 (1公演あたり)	上記指導者を含め、17名	機材等 運搬方法	<ul style="list-style-type: none"> <li>・宅配便</li> <li>・積載量 1t以下</li> <li>車長 4.265mm 台数 バン 2台</li> </ul>
企画のねらい	<p>①主体的な観客を育てる  映画はつくっただけでは完成しない。人が観て初めて完成する。だからこそ、時代を超えて人々に愛される映画が名画とされる。同じ映画を観ても、観たときの年齢や状況によって感じ方が違うことがあるのも、映画が各人の脳(心)のなかでその人の経験や記憶を呼び覚ましていくからだろう。  そのように“映画を観ている「私」”を感じ、映画に対して「私なりの考えを持つこと」や「自分なりにその映画をうけとり、自分たちの頭の中で映画を作り出す」ということは普段あまり意識されない。そのような鑑賞は観る側にも鑑賞能力を必要とするからだ。  そこで、国民の多角的な芸術鑑賞能力の向上のためには、このような、映画鑑賞における“主体的な観客”である姿勢をこどものころから大事にし、それを楽しく体験できる機会が必要である。</p> <p>②発想力の育成や芸術鑑賞能力の向上  また、鑑賞のみではなく、鑑賞した映画に関連した映画制作を体験することで、カメラの存在(アングルやサイズ、フィックスなのか手持ち、移動撮影など)や被写体の動き、演技などに気づくことができる。  こうしたこどもたちの発想力の育成や芸術鑑賞能力の向上を目指して本企画を実施する。</p> <p>③名作鑑賞による地域交流  ワークショップ1回目は、不朽の名作であるフランス映画『赤い風船』を鑑賞する。映画館が街中からなくなっている今、体育館が映画館に変わるということは、地域の大人も含めて</p>		

体験してもらいたいことである。その鑑賞に『赤い風船』は最適であると考えている。ほとんどセリフがないが、小学低学年でもストーリーが理解でき、テーマは信頼や友情、孤独、死といったものまで含まれ、その映像の美しさは大画面ならではの дайご味がある。世界中で愛され、子どもたちは息を飲んでスクリーンを見つめる、とても豊かな映画だ。

#### ④映画を深く鑑賞する

鑑賞後のワークショップでは、『赤い風船』の内容を振り返るゲームをしながら作品を深く理解していき、最後に、現実世界では感情を持たないはずの「風船の気持ち」を想像してもらう。映画のなかで風船はしゃべったりしないのに、風船の気持ちがわかったのは、「あなた」がそう考えた、感じたからであることを伝える(主体的な観客)。

#### ⑤映画ごっこではなく本当のクリエイションを目指す

メインプログラムでは、赤い風船から赤いボールに主人公を変え、生きていないボールを生き生きと映画の中で見せるにはどうしたらいいのかを子どもたちに考えてもらい、実際にそれをiPadで撮影する。いくつかのワークを事前にやることで、子どもたちは自主的にチーム内でコミュニケーションを図り始める。ボールの気持ちをどうしたら表現できるのか、仲間と悩み工夫し、協力し実際に手を動かしながら映画を内側から体験する。最後に自分たちで編集をして各チーム1分以内の映画に仕上げる。

#### ⑥映画づくりには正解がないことを伝える

2日目に行なわれるワークショップ2回目では、メインプログラムで撮影したものを1本につなげて(子ども映画教室のスタッフが前夜に編集する)、それを鑑賞する。他のチームの作品のボールの気持ちを想像し発表し、次に作った側もどんな気持ちを表現しようとしたか、どんな工夫をしたのかを発表する。これによりつくった側とみた側の違いがわかる。そこで答え合わせにならないように、どう受け取ってもいいのだということをしっかりと伝える。映画鑑賞も映画制作もどこにも正解がないこと、自由な解釈ができることを伝える。最後にプロの編集バージョンを見せることで、さまざまな編集の技を垣間見せる。

プログラム全体を通して伝えていきたいのが、学校の授業と違って、リラックスして自由な発想をすることが大切であること。クリエイティブであるためには心を開放し、楽しさを感じながら映画を観たり作ったりしていくことを伝える。

子どもたちは自分なりの映画の観方を自由に発表し、自分たちの手で作り上げた作品を観てもらうことで“主体的に”映画を楽しみ、自分の観たいように観てもいい、作りたいように作っていい、という体験を通して、自己肯定感が育まれることもこの企画のねらいである。

## 【公演団体名 とも映画教室】

<p>実施にあたっての会場条件および学校側が必要な準備等</p>	<p align="center"><b>【ワークショップ】</b></p> <p>会場: 体育館に持ち込みスクリーンなど上映・音響機材を設置し、映像を鑑賞できる環境、かつ参加する子どもたちが座れるスペースが確保できること。</p> <p>また、日中でもカーテン、暗幕などで会場が暗くできること。</p> <p>準備物: マイク等の音響設備、椅子(子どもが座席に座る場合、地べたでも可) 搬入車両およびスタッフ移動車両を停める駐車場</p>	<p align="center"><b>【メインプログラム】</b></p> <p>会場: 体育館、視聴覚室等、常設スクリーンまたは持ち込みスクリーンなど上映・音響機材を設置し、映像を鑑賞できる環境、かつ参加する子どもたちが座れるスペース、撮影してもいいスペースが確保できること。</p> <p>また、日中でもカーテン、暗幕などで会場が暗くできること。</p> <p>準備物: マイク等の音響設備。 搬入車両およびスタッフ移動車両を停める駐車場</p> <p>参加児童が多い場合、撮影に付き添う人員が必要となります。教員、保護者など</p>
<p>当日の所要時間(タイムスケジュール)の目安</p>	<p align="center"><b>【ワークショップ①+メインプログラム】</b></p> <p>前日(準備:1.5~3時間) 16:00 学校到着 先生方と打ち合わせ 上映会場暗幕設置などの設営 上映リハーサル</p> <p>当日 8:45 ワークショップ1回目:70分) ※全体の流れ①②③ 9:55 休憩(10分)</p> <p>10:05 メインプログラム開始(140分) ※全体の流れ<b>①②③</b> 12:15 メインプログラム終了</p> <p>~17:00 上映機材搬出</p>	<p align="center"><b>【ワークショップ②】</b></p> <p>(ワークショップ:50分) 12:00 学校到着 機材設置&amp;試写 スタッフ打ち合わせ 13:45 ワークショップ②開始(50分) ※全体の流れ<b>①②③④⑤</b> 14:35 ワークショップ②終了</p> <p>~17:00 上映機材搬出</p> <p>※学校ごとの在校生数により、チーム数が多い場合は、上映会は所要時間 100分</p>
<p align="center">※採択決定後、採択団体へ学校側に提示する条件の確認書の作成をお願いします。</p>		
<p>特別支援学校での実施における工夫点</p>	<p>特になし</p>	

実施可能時期

実施可能時期スケジュール表をご確認ください。



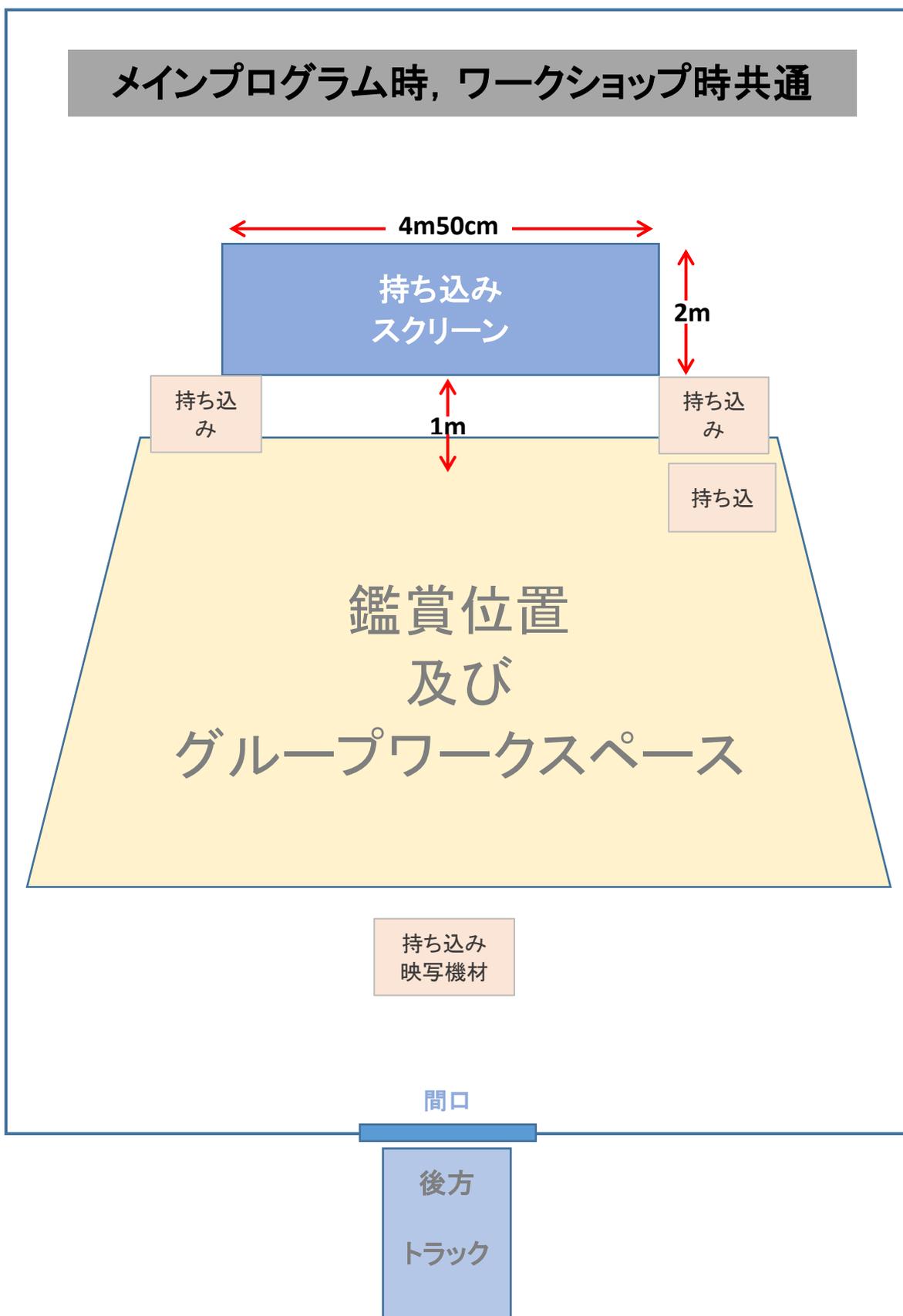
【令和2年度文化芸術による子供育成総合事業－巡回公演事業－実施条件等確認書①】

ID	K123	分野	メディア芸術	種目	映像	ブロック	K	区分	C区分
公演団体名	こども映画教室				制作団体名	一般社団法人 こども映画教室			

① 会場条件等についての確認

項目	応相談	必要条件等								
控室について	可	必要数 *	1室	条件	機材や貴重品を一時保管するため施錠できる教室が望ましいです。スタッフ11人が入れる広さ					
搬入について	可	来校する車両の大きさと台数 *			バン	2台	乗用車	1台		
	可	来校する車両の内、横づけが必要な車両の大きさ			バン1台					
	可	搬入車両の横づけの要否 *			要、台車などをご用意いただけましたら横付けの要否相談可					
	可	横づけができない場合の搬入可能距離 *			100m以内 ※これ以上でも台車等をご用意いただければ相談可					
	可	搬入経路の最低条件			なるべく屋根のある経路希望(相談可)					
	—	理由								
	—	設置階の制限 *			問わない					
WSについて	可	搬入間口について 単位:メートル			幅	2m(相談可)	高さ	2m(相談可)		
	可	参加可能人数			100名まで(多少の増員は相談可)					
	可	学年の指定の有無 *			あり	指定学年 *	小学校3年生以上			
メインプログラムについて	可	所要時間の目安 単位:分			WS① 70分 WS② 50分(②は人数が多ければ相談ください)					
	—	会場設営・本公演・メインプログラムの所要時間			※「出演希望調書」内「会場設営の所要時間(タイムスケジュール)」の目安をご参照ください。					
	可	鑑賞可能人数			『赤い風船』の映画鑑賞は、だれでも鑑賞可能です(保護者・地域の皆さんも鑑賞可)					
	可	舞台設置場所 *			ステージ上への設置・フロアへの設置ともに対応可能					
	可	舞台設置に必要な広さ 単位:メートル			幅	450cm	奥行	200cm	高さ	370cm
	—	体育館の舞台を使用する場合の条件			舞台袖スペースの確保 *			不要		
	—				舞台袖スペースの条件 *					
	可	遮光(暗幕等)の要否 *			緞帳 *	もしあれば使用希望	バトン *	不要		
	不可				理由			プロジェクターで映像を投影するため		
	—	ピアノの調律・移動の要否			指定位置へのピアノの移動 *			不要	※指定位置は会場設置図面にて御確認ください。	
	—				ピアノの事前調律 *			不要		
	可	フロアを使用する場合の条件			バスケットゴールの設置状況 *			格納されていれば可		
	不可	公演に必要な電源容量			6A			※主幹電源の必要容量		
	その他特記事項									
可	照明の準備の都合上、巡回確定後に体育館の天井照明が水銀灯かLEDかをお知らせください									
可	映画撮影の時に、ロケ地として学校敷地内、学校近隣等を使用希望です。巡回決定後にご相談させていただきます。									

メインプログラム時, ワークショップ時共通



搬入間口について	幅	2m程度	高さ	2m程度
搬入車両の横づけの可否	要、台車などをご用意いただけましたら横付けの可否相談			
横づけができない場合の搬入可能距離	100m以内 ※これ以上でも台車等をご用意いただければ相談可			

※搬入に関する条件の詳細については、図面上の表にて御確認ください。

実施日程	実施校名	地元主催者
2019年7月1日(月)	須崎市立新荘小学校	高知県教育委員会
2019年7月2日(火)		
2019年7月4日(木)	宿毛市立橋上小学校	高知県教育委員会
2019年7月5日(金)		
2019年10月29日(火)	西条市立三芳小学校	愛媛県/愛媛県教育委員会 西条市教育委員会
2019年10月30日(水)		
2019年10月31日(木)	今治市立鴨部小学校	愛媛県/愛媛県教育委員会 今治市/今治市教育委員会
2019年11月1日(金)		
2019年11月11日(月)	美馬市立江原北小学校	徳島県教育委員会 美馬市教育委員会
2019年11月12日(火)		
2019年11月14日(木)	砥部市立広田小学校	愛媛県/愛媛県教育委員会 砥部市/今治市教育委員会
2019年11月15日(金)		

知っていますか?~10月1日は「国際音楽の日」です~

1977年にユネスコの要請で設立された国際音楽評議会という会議で、翌年の1978年から毎年10月1日を、世界の人々が音楽を通じてお互いに仲良くなり交流を深めていくために「国際音楽の日」とすることにしました。

日本では、1994年から毎年10月1日を「国際音楽の日」と定めています。

こども映画教室とは…

15年前に始まった「こども映画教室」がめざすのは「こどもと映画のアカリイミライ」。多様な活動を通して、映画という自由で身近な芸術をより多くのこどもに届けます。

こども映画教室が大事にしていることは2つ。1. 大人は手出し口出ししないこと。2. 一流の映画人と出会うこと。

大人がこどもを信じ自主性を尊重することでこどもには自尊感情が生まれ、真剣な大人との出会いはこどもを勇気づけ自己肯定感をもたらします。

「映画教育は人間教育」という言葉を胸に、生きづらさを抱えた子や、居場所をもちにくい子にも映画を届けたいと活動しています。これまでに、是枝裕和、諏訪敦彦といった一流の映画監督たちがこの活動に共感し特別講師を引き受けています。

一般社団法人 **こども映画教室**

〒158-0084 東京都世田谷区東玉川1-32-23  
phone & fax : 03-6313-1641

http://www.kodomoeiga.com  
info.kodomoeiga@gmail.com  
https://www.facebook.com/kodomoeiga/



文化庁  
令和元年度  
文化芸術による子供育成総合事業 一巡回公演事業一

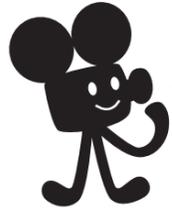
一般社団法人  
えい が きょう しつ  
**こども映画教室**

映画鑑賞+ワークショップ公演  
「生きてないものが動く!」  
みんなで赤いボールを主人公にした映画を撮ろう!

「文化芸術による子供育成総合事業一巡回公演事業一」

我が国の一流の文化芸術団体が、小学校・中学校等において公演し、子供たちが優れた舞台芸術を鑑賞する機会を得ることにより、子供たちの発想力やコミュニケーション能力の育成、将来の芸術家の育成や国民の芸術鑑賞能力の向上につながることを目的としています。

事前のワークショップでは、子供たちに実演指導又は鑑賞指導を行います。また、実演では、できるだけ子供たちにも参加してもらいます。



えい が かんしょう  
映画鑑賞+ワークショップ

「生きてないものが動く！」

みんなで赤いボールを主人公にした映画を撮ろう！

### プログラム紹介

※プログラムは施設ごとの状況により変更となる場合がございます。

## ①映画を“観る”

映画『赤い風船』は世界三大映画祭の一つである第9回カンヌ国際映画祭短編映画部門で最高賞のパルム・ドール第29回アカデミー賞脚本賞ほか数多くの賞を受賞した今もなお価値が失われない名作です!!

1950年代のパリを舞台に男の子と風船の友情を描いたこの小さな映画は、世界中で愛されています。この映画に出会えてよかったと思える美しい名作をみんなで鑑賞します。

『赤い風船』(1956年/フランス映画/36分)

監督・脚本:アルベール・ラモリス

### おはなし

ある日、街角で赤い風船をみつけた男の子。

なんと風船は手をはなしても、

まるで生きているかのように男の子のあとをついてきます!

## ②映画について“おしゃべりする”

鑑賞した『赤い風船』について、どんな人が出ていた?

どんな音がした?など、みんなでおしゃべりしながら振り返り、

映画について感じたことや考えたことを言葉にします。



※本公演ではiPadを使用して撮影します

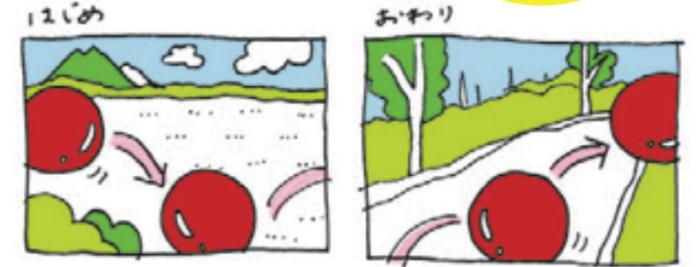


## ③映画を自分たちで“撮る”

チームに分かれ、赤いボールを主人公にした短い映画をiPadで撮影します。ストーリーも撮り方もみんなで考えます。

ルールはひとつ!

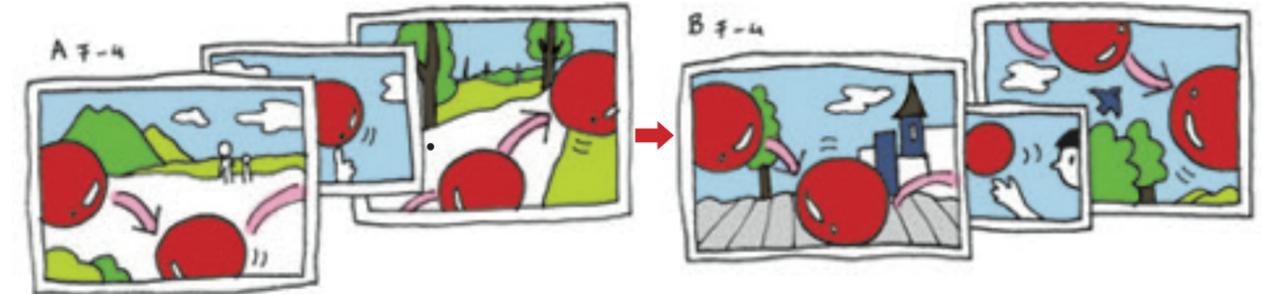
ボールはかならずフレームの外から入ってきて、最後はフレームから出ていきます。おもしろそうな場所を見つけて撮ってみましょう。



## ④自分たちの映画を“観る”

それぞれのチームが撮った映画を1本につなげてみると?!

なんとAチームの映画のおわりにフレームの外に飛びだしたボールがBチームの映画の中にポンとはいってきて、次にはCチームの映画の中に!! まるで赤いボールがみんなの知っている場所を冒険していくように見えます!



特別講師プロフィール  
諏訪 敦彦(映画監督)

映画監督、大学教授(東京藝術大学)。1997年に公開された『2/デュオ』で長編映画監督デビューの後、1999年公開の監督作品『M/OTHER』で、第52回カンヌ国際映画祭の国際批評家連盟賞を審査員全員一致で受賞。2005年には、全てフランス人キャスト・スタッフによる『不完全なふたり』(日仏合作)がロカルノ国際映画祭において審査員特別賞と国際芸術映画評論連盟賞を受賞。その後フランスを活動拠点とし、オムニバス映画『パリ・ジュテーム』(2006年)への監督参加、フランス人俳優との共同監督による『ユキとニナ』(2009年)がカンヌ国際映画祭において高い評価を受ける。2018年、8年ぶりの監督作品『ライオンは今夜死ぬ』(2017年)が公開された。最新作は『風の電話』(2020年初春公開予定)

### ワークショップスタッフ

【特別講師】  
諏訪 敦彦(映画監督)

【プロデューサー】  
土肥 悦子

【ファシリテーター】  
深田 隆之 奥定 正掌 今橋 貴  
小林 和貴 糖塚 まりや 大川 景子  
飯岡 幸子 西原 孝至 上田 謙太郎  
太田 達成 中村 隆一

【テクニカルマネージャー】  
酒井 貴史

【アシスタントプロデューサー】  
浅見 孟